JA会津みなみ福島県南会津町 7 卜生産組合

遠隔、 多雪地でブラ ۴ 産地確立

品質 就農に毛 食味 高 孠

雪室予冷**2などを導入、特に9~10月に安定した品質、良食味、出荷数量を確保することで市場から高い信の下で、50年にわたり夏秋トマトを生産し、「南郷トマト」のブランドを確立させた。光センサー**による選果や る。 頼を得ている。徹底したブランド管理を行うとともに、規格外品をトマトジュースやドレッシングに加工、販売す JA会津みなみの南郷トマト生産組合(福島県南会津町)は、消費地からの遠隔、多雪地という不利な条件 ターンによる新規就農者も積極的に受け入れ、農家、JA、行政が一体となり産地を盛り上げている。

効率経営、高単価も実現全国、県レベル超の収量

の2.4倍にも上 が 33.6 %(平 成27年4月)。夏秋ト 郷町の125戸で構成する(平 会津郡の南会津町、只見町、下 を占めている。 全体では9.5%にとどまる 月に出荷し、作 ど当たり収量は10・2 と 均の1・7倍、全国平 ゾと県全体 成25年 生産組合は、 る。出 ·度)。 付面積は .荷量は 福島

多 7、関西1の合計9市場の他、 年度)と、県内の り、単価はキロ312円(平 度)。単位面積当たり 直売所、宅配、インタ る。出荷先は県内1、京浜地区 選果されたものだけ も取り扱い、全国に届け る。市 億 6 扱ったトマト い、効率的な経営の実現によ A 会津みなみの選果場で 」のブランド名で出 場販売額は全体で 万円(平 A系統が の収量が を「南郷 ネット 成 25 られて .荷す 円が成を取25 トで 年 約

> 扱っている京浜地区の量販店は、 パー 継続して「南郷ト ・トナー 店」と位置付け マ を て、



選別、箱詰めされた「南郷トマト」

は年間約55万缶(1 規格外品は加工 用として

ング」、そして「南郷トマ

は

売している「南郷トマトドレッ会社である只見特産が加工

販

対取引も行っている。 度実施。トマトの魅力をPRす する店頭販売は、I る。 販売促進活動に力を入れて いる。一部量販店とは、予 るとともに、消費者からのニーズ との共同でシーズン中に20回程 も直接受け止める機会となって 。生産者や A関係者が参加 A全農福島 約相

規格外品を加工したトマトジュース

クッ)製造され、収穫翌年の夏を だ。また、JA会津みなみの 荷される。「南郷トマトジュー たずに完売されるほどの 缶 9 集 0

に選ばれた。

大賞」において、

2年連続で大賞

福島県南会津町、只見町、下郷町

南会津町、只見町、下郷町は福島県南西

部にある。標高350m以上の中山間地で、 気温は昼夜の寒暖差が大きい。夏は冷涼、 冬は寒さが厳しく、東北でも有数の豪雪地 帯に挙げられる。山間部を水源にした豊富 で清らかな河川や地下水を利用して、夏秋ト マトを中心に園芸品目と水稲の複合経営が 定着している。



が主催する「ふくしまお

成25年と平

成26年、福島県

つなげている。「南郷トマト」のブ と自動箱詰め機を導入。冬季 降雪を生かした雪室で予冷 計画的な出荷に -ルドチェー 強い。 は、連作障害として青

規模拡大も後押し選果場が労力軽減

灯で栽培を始めたのをきっかけ

40年には同組合が設立された。 に、次第に栽培者が増加。昭和

部を除き、連作障害はほとんど 高が高く夏の気温が他産地に アップに活用されている。 問題になっていない 比べ低いことから、標高の低い の土壌病害が多発する傾向が 上の栽培歴にもかかわらず、標 トマト栽培歴が長い産地で し、同組合は50年以 枯病など

人がトマト研究部を組織し50村(現・南会津町南郷地区)の14培に適していた。昭和37年、南郷

模 は 17

・6 %に拡大した。

定供

給を実現させ

た。平

成

ウスによる栽培に切り 主導により産地全域でパ

軽減された。昭和53年には只見 農家の肉体的な負担は大幅に 選だった。選果場の設置により

町にも設置され、産地の栽培規

南会津町

只見町

下郷町

監事

トマト女性部

トマトシルバークラブ

南郷トマト

支部

支部

のが

トマトだ。山砂や川砂が多い

土地は、排水が良好でトマト栽

課題だった。そこで、注目された 支えられる品目を見つけるのが

で出荷物を選別・箱詰めする個 れまでは、農家がそれぞれの家

設置がトマト導入を後押

録、平成19年には地域団体商標

して登録され(商標権者は

れた」と振り返る。

さらに、昭和62年には、部

A会津みなみ)、

産地の知

名

度

性も期待できなかった。選果場の

ランド名は、平

成16年に意匠登

津町に設置された選果場だ。そ

なったのが、昭和51年に現・南会

選では選別作業にかかりきりに

を整備し、より することなどでコー

してきた。馬場さんは「個

なって規模拡大が難しく、将来

培を始め、長年にわたり産地を 農2年目の昭和51年にトマト栽 合長の馬場崇嗣さん(63)は、就

0)

年には光センサ

-による選別機

産地を躍進させるきつかけと

方で、養蚕や酪農などが振る ず、農家経営を将来にわたり

3町では水稲栽培が盛んな



| 年度 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 | 夏 秋トマト | | 水梢 | | |
|--|--------|------|------|------|--|
| 平成23 | 27.0a | | 224a | | |
| 平成24 | 28.4a | | 246a | | |
| 平成25 | 27.6a | | 246a | | |
| 農家の平均経営収支(夏秋トマト)の推移 (千円) | | | | | |
| 年度 部門 | 平成23 | 平成24 | | 平成25 | |

農家の平均経営規模の推移

南郷トマト生産組合と関係機関の組織図

南郷トマト振興協議会

南郷トマト生産組合

組合長

副組合長

理事

支部

支部

各生産者

県南会津農林事務所農業振興普及部

南郷トマト指導班

トマト研究部

支部

JA会津みなみ

収入 6,963 7,853 7,894 支出 4,560 5,319 5,169 所得 2,403 2,534 2,725



光センサーによる選別機や自動箱詰め機を整備した選果場(南会津町)

栃木県

20



年齢別組織設け活動も JA一体で振興

共通基盤に関するガイドライン 農業生産工程管理(GAP)**3の を入れている。栽培面では、国の

目ぞろえ会で選果場に集まった生産者

否や研修先も決めている。 他、新規就農者の受け入れの可 ため、独自に育苗センタ 品種の選定などを決定する 同組合は健全苗を供給する している。役員会は、育苗方針 を運

種試験や各生産資材の試験を 産者約50人で構成する。 「研究部」は主に40歳未満の

> 研鑽に努めている。 以上のベテランが所属するシル 売による産地PRを担当。65歳 献している。「女性部」は店頭販 行い、組合の栽培技術向上に貢 クラブも、情報交換や技術

行政、

も設けて、組合員の意欲を喚起シルバー賞など多彩な表彰制度 者が対象の新人賞、65歳以上の を表彰する部門賞、新規就農 の優秀賞、品質や収量の上 県知事賞をはじめとする5つ 位者

年は16

0点を検査し、すべて

測定下限値以下だった。

で結果を公表している。平成25

から1

個を

荷シー

ムページ上

携して産地振興に努めている。 各組織と、行政関係者らが連 会」を設けており、組合内部の 郷町は「南郷トマ

振興協議

津みなみ、南会津町、只見町、下

務所農業振興普及部、J

A 会

組合と、県南会津農林事

安心・安全を確保 積極的に情報発信

を食べてもらう取り組みにも力 者により安心しておいしいトマト 環境に配慮した栽培で、消費

生産者らによる量販店での販促活動 年 に準拠して、「南郷トマト生産工

採取して検査し、ホー 誌の回収、農薬の適正使用につ 程管理マュアル」を策定。施肥 に出荷されたトマト ズン中の毎週、全生産者を対象 象に、放射性物質の検査を実施 発電所の事故発生後の平 化学肥料栽培を行っている。 料を同4割削減した減農薬・減 量を慣行より2割削減、化学肥 なげている。全生産者がエコファ や農薬使用の記帳、記帳した日 している。選果場では出 144カ所、用水路36水系を対年からは、作付け前に全圃場の発電所の事故発生後の平成24 東京電力福島第一原子 -を取得し、化学農薬の使用

力

パイプハウス建設に集まった若手生産者と鶴見さん夫妻(右手前)ら

分析も行い、適正施肥を推進し 全組合員を対象に圃場の 培技術や病害虫防除に関する ができるように支援している。 発信して、効率的な管理と防除 情報を年15回程度、組合 また、同組合の指導班が、栽

> け入れと手厚い支援体制の には、新規就農者の積極的な受 存続、発展が期待できる。背

整

備がある。

おおむね2年間研修を受け 夫妻、もしくは親族を伴って定 住する②ベテラン農家のもとで 就農には①労力確保 などを条件にしている。 いのため る

若手丨 農地の仲介、 ターン就農が続々 住宅斡旋も

代で35%を占め、栽培歴40年以 に見ても低いことだ。20~40歳員の平均年齢が54歳と全国的 なくいるため、20年先も産地の 上のベテランから若手まで偏り 同組合の大きな特徴は、組合

壌

地域住民とともに イプハウスの倒壊、原発事故に伴 不安定な収量、豪雪によるパ ボランティアによるパイプハウスの除雪

ろん生活面でも気軽に話がで ちと同じようにIター した人も多いので、営農はもち した。鶴見さん夫妻は「自分た ーンで就農

員、県南会津農林事務所農業

政による取り組みの結果、平

このような同組合、「

A、 行

4年度からは、ほぼ毎年

心して独立経営への準備をす

Ź

きるのが心強い」と話す。

も支援体制が整っているので、安

鶴見さんは「農業経験ゼロで

ことができた。研修は厳しかった

農後も組合長、JAの営農指導

れ農家が地主と交渉したり、就 地が確保できるように受け入

不安を取り除いている。

にトマト栽培を始めている。

た後、平成27年春から本格的

建設、斡旋しており、生活面での

新規就農者向けに賃貸住宅を

年、近隣のスキー

・場を訪れている

中

旬、鶴見さんが自前のパイプ

るように個別に巡回指導した る「指導班」が、収量を確保でき 振興普及部職員などで構成す

戸の

- ターン就農者の受け入れ

に成功している。スキ

ドの熱狂的な愛好者が毎

に挑戦できる」と力を込める。 が、おかげで自信を持つて経営

トの経営面積は約25点

する。さらに、南会津町では、

トマト産地次代に



新規就農者向けの賃貸住宅(南会津町)

竜也さん(26)も、シーズン中は毎

茨城県つくば市出

. 身の

鶴見み

形を仕上げた。「新人がトマ

イプを次々と差し込み、ハウスの

週スキー

・場を訪れていた熱烈な ド愛好者。「この地に

> ンティア的に集まってくれた。 栽培を始めるからと若手がボラ

前組合長のもとで2年間研

就農をきっかけに1年前に結

(33)とはスキー

と馬場前組合長。妻の智子さん

あるのが、うちの組合の強みだ」 んなで育てようという気持ちが

ターンで就農した。馬場

楽しめる生活を続けたい」と決

定住して、スノー

を存分に

スが、I

・ン就農者の半

·分程

た。雪解けの圃場に等間隔でパ

に、「研究部」のメンバー

-が集まっ

ハウスを建てるのを手伝うため

度を占めている。

聞いて関心を持ち就農するケ

手組合員から同組合の活動を うちに、スキー場で働いている若

である。苗はすべて生産組合を通じ て購入し、JAの選果場で選果された ものだけが、「南郷トマト」としての扱 いを受ける。

このように、若く持続性が期待で き、市場の信頼も厚い生産組合であ り、トマトを基幹作物とした高収益農 業のモデルとして高く評価できる。

審査講評

中央審査会

大杉 立 委員長

加入戸数が125戸、平均年齢54 歳の若い組合である。トマト売上高は

1戸当たり750万円超を達成してい る。7~10月の夏秋トマト出荷である

が、特に9~10月におけるトマトの安

定した品質、食味、数量を確保するこ とで市場の高い信頼を得ている。

評価された第1点は、「新規就農

者の増加による平均年齢の若さ|で

ある。組合では、Iターンを含めた新規

就農者の受け入れを積極的に行っ

ている。人材確保の方法もユニーク

で、Iターン就農者の半分程度は近

隣のスキー場を訪れていた若者であ

る。現在、30代から70代まで20数

人の新規就農者がいるが、営農指 導員等の「南郷トマト指導班」による

手厚い支援体制もあって、ここ5年 間は離農者もなく、持続的な発展が

第2点は、「遠隔多雪地という不 利な条件、あるいは、高い標高の気

象条件を最大限に活用して高品質

トマトを生産していること」である。冬

季の降雪を利用した雪室で予冷を行

うことでコールドチェーンを確立し、計

画出荷を実現している。また、夏の温

度が低いことから、50年以上も病害 防除のための土壌消毒を行っていな

第3点は、「徹底したブランド管理」

期待できる。

L1º

ピンチは度々訪れた。そのたびに、 次世代につなげたい」と将来を組合員が協力して、この産地を ともに、ベテランから若手まで全 とはできなかった。地元住民と 「トマト栽培は地元の貴重な産 史の中で、産地がつぶれそうな う風評被害……。長い栽培の 者だけでは到底、産地を守るこ 長の三瓶清志さん(52)は「生産 業だ」との思いから、地元の関係 見据える。 者が復興に協力してきた。組合

※2 冬に降った雪を保存・活用して、野め、選果場での選別に利用されている。め、選果場での選別に利用されている。 る施設を冷やす

組み が生産 生産工程全体を①点検項目の策農産物の生産現場で、農業者自 法で見直

把握と見直し(A)――という「PD自己点検(C)④改善が必要な部分(P)②農作業内容の記録・保存(D)(、改善す